

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390103119		
法人名	メディカル・テート株式会社		
事業所名	風流街もやい館グループホーム五福		
所在地	熊本県熊本市中央区細工町4-34-1		
自己評価作成日	令和5年10月	評価結果市町村受理日	令和5年12月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本県熊本市中央区水前寺3丁目15-1		
訪問調査日	令和5年11月1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所の拠点となる地域は伝統と歴史を有し、交通の利便性も豊かな土地柄となっています。運営理念としてマザー・テレサの「小さな事も、大きな愛をもって」という言葉を掲げ、利用者とその御家族の豊かな人生、そして楽しく笑顔で過ごしていただくための支援を行っています。協力医療機関である宮本内科小児科医院はホームから徒歩30秒の位置にあり、日々連携を取り緊急時の迅速な対応が可能です。また入居者・利用者のご家族・ご友人らと連絡を取る事で情報交換を行い、ホームにおける透明性の確保を旨として運営しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

入居者一人ひとりの人物像を把握し、職員間で共有し、個々に応じて「愛を込めた介護」に努めている。協力医療機関が道路を挟んで向かいにあり、日頃から連携が密に図られ、緊急時はすぐに適切な指示を得て対応することが可能であり、安心の医療体制となっている。従来から地場産業や地元商店等とのつながりが強い地域であり、今年4年ぶりに地域で「風流街ロマンフェスタ」の開催が予定されている。また、小学校吹奏楽部の練習に場所を提供したり、バザーに協力するなど、コロナ禍前に行っていた地域との交流活動が、再開されている。季節の花見やドライブなどの外出支援も徐々に行われ、入居者の楽しむ機会が増えている。ホーム内は清掃が行き届き、清潔感が感じられ、明るく温かい雰囲気、入居者の穏やかな日常が伺えた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入職時の研修の際にも当所が掲げている「小さな事も大きな愛をもって」の運営理念、目標の説明を行い「愛をこめての介護」を各ユニットで共有し実践につなげている。	入居者一人ひとりの人物像を把握し、職員間で共有して個々に応じた対応に努めている。理念に沿ったケアの実践について、カンファレンスで振り返りを行いながら、質の向上に向けて取り組んでいる	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地場産業や地元商店の方々と連携を行いつつ、情報の共有や交流を図っている。非常時・災害時には地元消防団もかけつける手はずとなっている。	今年は4年ぶりに地場産業や地元商店の方々と連携して、「風流街ロマンフェスタ」が開催される予定となっており、法人も介護相談・医療相談等で参加することとしている。また、地域の小学校吹奏楽部の練習に場所を提供したり、バザーに協力するなど、コロナ禍前に行っていた地域との交流活動が、再開されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ等の情勢を鑑みつつ町内会との連携の一環として、地域で行われるバザーの会場として1Fのフロアの貸出など地域への支援を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設の運営状況などを書面にて報告。一般公開しつつ電話・FAX・訪問等での意見交換を行い、具体的な要望などを取り入れ運営のサービス向上につなげている。	コロナ禍以降、運営推進会議は書面会議を継続している。資料は、入居者の状況等の報告に加え、委員からの意見・提案を出し易くするために、2か月間の活動状況・取組などが分かり易く伝わるための工夫が期待される。	対面での会議が再開された際には、地域の協力を得たいことや、ホームが課題としていることなど、テーマを決めて話し合うことで、さらに有意義な会議になると思われる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営上の疑問点などはその都度、市町村・介護福祉課の担当者に連絡する事で確認を取っている。 日頃から事業所の報告や実情報告を積極的に行っている。	地域包括支援センターとは、「風流街ロマンフェスタ」の会合等で連携している。市担当とは、コロナ関連や母体法人格の変更にあたり、手続き等でアドバイスや指導を受けており、協力関係が築かれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止に関する研修会を年二回実施。また定期的に委員会を開き各ユニットの代表者より状況報告をしてもらい話し合いを行う事で、身体拘束を伴わないケアについて意識を持ってもらい支援にあたっている。	年2回の外部講師による身体拘束廃止についての研修や、3か月に1回の身体拘束適正化検討委員会で施設内の現状報告と話し合いを行っている。また、年2回、職員は自己点検チェックリストでケアの振り返り等を行い、身体拘束のないケアについて取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束・虐待防止マニュアルに従い定期的な研修会・勉強会・委員会を行っている。各ユニットからの報告に対して意見を交わし職員同士が声掛けをしあう事で風通しを良くし、意識を持って支援にあたっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に一度、集団指導での資料を用いて職員一人一人が制度の理解ができるように研修会を実施している。また入居者の中には身元引受人が成年後見人という方もいるので、制度の認識も兼ねてスタッフ自身にその方に状況報告や定期連絡をもらっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には事前の施設の見学、また料金・契約内容の確認、利用希望者の病状等の変化時や看取りの際の対応についての説明を行い、本人含めご家族からの理解・同意を頂いた上で同意書等をもらい納得してもらえるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や事務所窓口での対応時、または電話連絡時などにおいてご家族との連絡・意見交換を行い運営に反映させている。	家族の面会時や電話などで、入居者の近況報告を行い、意見・要望等を尋ねるよう心掛けている。入居者の食べ物の要望や、うるさくて眠れない等の訴えは、ホーム内で検討し、家族とも連携しながら対応している。毎月、担当スタッフが近況を伝えるお手紙を書き、写真を添えて家族に送付し、入居者の様子を知らせている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や職員個々の意見の交換の場を設けている為、運営に関する提案や意見を聞いてそれを反映できるようなシステムは形成されている。	職員会議は、必要に応じて行っており、入居者個々のケアや、業務改善等について意見を出し合い、運営に反映させている。「夜勤帯の休憩が取りにくい」との意見に対して、2階のユニットの夜勤者が休憩する時は3階のユニットの夜勤者が2階も兼務するなど、休憩を取り易くするために検討を重ね、改善に向けて取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が諸規則を遵守しているか、一致団結して協力して労働しているか、利用者に対して誠実さを持って勤務しているかを主として、把握に努めている。 また、自己評価表を導入し職員同士で全体の勤務態度や能力の評価を年に一度実施し、職場環境や条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修への参加や個々人のスキルアップを図るための機会は設けている。また、月々のテーマに沿った勉強会を施設内で行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	居宅介護支援事業所や社会福祉事業団との交流を行う事でネットワークづくりの機会を設けたり、他施設の管理者との意見交換の場を設ける事でサービスの質の向上を目指している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入前に本人と面談を行い、本人の抱える不安や要望を拝聴する事で安心して入居してもらえるように配慮し、入居後は担当スタッフを設定し利用者の要望に応えやすいような環境作りを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入時や契約締結時にご家族が抱える不安や要望を拝聴し、希望に沿ったサービスが提供できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	適切なサービス提供を実施する為に、事前のアセスメントでケアの優先順位をスタッフが把握・検討するとともに、医療機関など関係各所との連絡・連携・調整を行うといった対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で本人に出来る事は自身でもらい、出来ない部分の介助をスタッフがサポートしている。季節の行事や日々のレク、食事・体操など様々な活動を共に行う事で想いを共有しながら良好な関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	遠方に住む家族に対しても手紙や電話、TV電話等で会話が行えるようにしている。利用者のみならず職員もその家族と会話する事で連絡・状況報告を行い、関係性の構築に努め、利用者とその家族双方の要望・意見を聞く事ができる体制を整えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の友人や知人からの連絡も受け入れており、面会の機会を設けたり、電話やTV電話等で交流する事が出来る様に努めている。	入居者は、ホームの近くの住民だった人も多く、友人・知人や教会関係の方の面会がしばしばある。また、携帯電話の使用や電話の取次ぎなどで馴染みの人との関係継続支援に努めている。例大祭には、祭りの一行と飾り馬が来訪し、入居者に喜ばれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	集団レクや外出レク、家事作業を職員と共に行う事で、職員が個々に合った活動の提供が出来る様に利用者の性格や嗜好を把握し、利用者同士が声を掛け合えるような関係性の構築を図り、出来ない部分の補助を職員が行っていく環境作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス提供終了後にもご家族がホームに挨拶に来館されるといった関係性の構築、気軽に立ち寄る事ができる・相談する事が出来るといった雰囲気を作れるように日々取り組んでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話や交流の中から本人の要望、また言外のニーズなども把握できるように努め、本人の自尊心に配慮して行動できるよう検討している。	思いを表現できる人は多く、花を見たい方は一緒に花を買いに行ったり、○○を食べたいという要望には、ドクターとも相談してできる限り要望に応えるよう努めている。思いの表現が困難な場合は生活歴を参考に、好きだったことができるよう促したり、表情を見て意向を把握するなど、情報を職員間で共有して支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴をはじめ、ご家族やご友人等からも本人の情報を得る事でカルテを作成し、携わる職員一人一人がその情報を知った上でのケアを行えるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態を記録に残し、職員間においてチェックや申し送りにて本人の情報・状況把握に努めている。月に一度モニタリングを行い、アセスメントにて最新の状況が確認できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	短期・長期目標と設定したケアプランを作成し、期間ごとに課題の検討やケア内容の見直しを本人の現状に沿える形で調整しながら行っている。各利用者に担当者を設定し、職員間で話し合いや意見交換を行う事で本人の状況確認に努めている。	ケアマネは毎月、担当職員と話しあいながらモニタリングを行い、半年ごとにカンファレンスシートや職員の意見を参考に、評価し計画の見直しを行っている。本人のニーズ・希望をできるだけ把握し、要望に沿って、ホームでの生活が楽しく満足してもらえるよう心掛けて計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子等は個人経過記録にSOAPに準じた記入をするよう努めている。ケアプランに基づいた実践報告や職員の気づき等も記入してもらう事で、カンファレンスの資料とし、プラン内容の見直しに反映・活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人含めご家族のニーズに可能な限り応える事が出来るよう検討し対応を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設周辺地域は古くから商業地区であり、職員一同地域資源の把握と情報の共有を行う事で入居者の方々が楽しめる様に心掛けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・ご家族同意のもと併設する医療機関と連携し、体調の変化時・急変時には迅速な連絡を行い、往診などを含めた支援体制を整えている。	入居時に本人・家族と話し合い、了解を得て、全員が協力医療機関の宮本医院をかかりつけ医としている。毎月1～2回、訪問診療を受けており、日頃から密な連携が図られている。体調に変化が見られる時はすぐに医院に連絡して指示を仰ぎ、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職が得た情報や気づきは職員間で共有し、適宜医師・看護師へ申し送りを行い受診・往診ができるような支援体制ができています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院側と看・介護サマリーの伝達をし情報交換をする事で早期退院の支援を行う。退院時のカンファレンス等も迅速に行い、利用者がスムーズに再入居できるように心掛けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者が重度化した場合については入居契約時に本人・ご家族に説明を行い、主治医とも終末期について話し合っておく場を設けている。 また、任意であるが重度化・看取りについての意思確認を定期的に書面にて行っている。	入居時に終末期の対応方針について、要望に沿って対応できることを本人・家族に説明し、意向を確認している。また、意向確認は毎年行い、重度化した際は院長が状況を説明し、協力医療機関と密に連携しながら意向に沿った対応を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時・事故発生時に備え定期的に勉強会・訓練を実施している。 その他には緊急時対応マニュアルを各フロアに配布し、定期的にマニュアル内容の確認及び職員間での役割分担の周知徹底を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練・防災訓練は定期的実施しており、日頃から防災への危険意識が身に付くように職員同士での話し合いも行っている。 熊本地震においては、施設の1階部分を避難所として提供し、職員・地域住民の方々と協力しながら危機を乗り越えた。	年2回、日中・夜間想定での火災避難訓練を実施している。消防署・地元消防団は近距離にあり、日頃から連携を図っており、災害時はすぐに駆けつけてもらえる段取りとなっている。食料や日用品等の備蓄は確保できている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人に失礼のない且つ嫌な思いを抱かせない呼称で声掛けするように職員には徹底しており、本人の誇りやプライバシーを損ねない言葉かけで個々を尊重する対応をしている。	呼称は基本的に苗字にさん付けとし、失礼な言葉遣いや対応がないよう留意している。入浴介助は、希望に応じて同性介助で行うなど羞恥心に配慮し、誇りやプライバシーを損ねない対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が何を希望しているか個々に尋ねる機会を設けている。入浴に関して言うならば、希望者には同性介助を行っており、本人の希望や思いが実現できるように検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの希望をくみ取れるように職員達は各利用者に声掛けを行い、日々利用者のペースに沿った支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類は本人・ご家族に用意して頂き、その日に着用する衣服は本人様に選んでもらい、着替え等のサポートを行っている。整容は本人に確認し、朝からの化粧の準備やサポートを行っている。生活されていた時と同じような環境・習慣になるように努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は栄養課で調理しており、利用者一人ひとりの好みに出来る限り沿った食事、本人のレベル・体調を考慮した食事、季節に合った行事食等を提供している。また、誕生日には食レクを行い、食を楽しむ機会を多く持てるように努めている。後片付けは数名の利用者とスタッフが共に行っている。	食事は1階の栄養課で併設のデイサービスの食事と一緒に作り、リフトで2・3階のホームに運んでいる。数名の入居者は、お盆拭きなどできることを手伝っている。お正月・ひな祭り・七夕・クリスマスなどには、季節に応じた行事食が提供され、誕生日はたこ焼きパーティー・チョコフォンデュづくりなど、趣向を凝らしたメニューで楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各利用者の一日の食事量をチェックし個別に記録している。食事の形態に関しても、日々の状態を把握し、その都度職員間で情報共有を行い調整を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声掛けを行い口腔ケアを実施している。口腔内を確認し、口腔スポンジやマウスウォッシュを使用するなど個々の口腔状態に合わせた支援を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて個々のパターン把握に伴ったケアを実施し、排泄の声掛けや支援を行っている。	排泄は、自立している方、おむつ使用の方、排泄パターンに応じてトイレ誘導する方など、個々の状態に応じて対応している。一人ひとりに適切な排泄用品が使用できるよう、常に検討している。失敗で傷つかないようプライドに配慮しながら支援している。排泄の状況の現状維持以上を目指して、ケアを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を用いて排便の状態や確認を行っている。 日頃の水分摂取や運動をしてもらう事で排便困難にならないように対策を講じ、必要時には主治医に報告、指示をもらい対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の意思・体調を考慮し週3回の入浴を実施している。入浴日は設定しているが、当日の本人の体調や入浴の希望がない場合には延期や清拭を行い対応している。	入浴は基本的に週3回としている。ホームにある一般浴槽の他、状態に応じデイにある機械浴を使用することもできる。季節に応じ、菖蒲湯・ゆず湯・橙湯などをしたり、時にはデイの大浴場にみんなで入って、お風呂屋さんの雰囲気を楽しむ支援もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズム・パターンを把握し、安心して休息・入眠できるような環境を整えられるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服セット時、与薬時には必ずダブルチェックを行い服用まで見守りを行っている。状態変化時には主治医に報告を行い、指示を頂き対応している。また、月に2回薬局からの居宅療養管理指導があり、薬剤師の方に相談や助言を頂き対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人やご家族からの情報で得られた生活歴を基に、本人の持たれる価値観・雰囲気・生活感を職員と一緒に共有し、整えられるよう努めている。嗜好品等は本人と共に一緒に買いに行くなどしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとの行事や施設周辺の散歩など、感染症対策をしつつ天候や気温に留意し、季節に合わせて行っている。	日頃は近隣の散歩や、ホームの駐車場で花火大会などのレクリエーションを楽しんだりしている。最近は、徐々に市街地へのドライブや動植物園、季節の花見などにも出かけた。家族の要望に応じて、人込みを避けての外出なども支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の金銭は本人・ご家族同意のもと事務所にて預り金として保管している。受診・お薬代・お小遣い等、金銭の保管・管理・支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自身での対応が可能な方には自由にして頂いているが、利用者の要望があった場合には職員が代理で対応を行い、会話や手紙の投函などの支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有フロアのテーブルには季節に合わせた花々や植物、利用者と共に作成した季節の作品などを飾っている。 また温度計・湿度計・空気清浄機を動線外に設置し、快適な生活空間を提供している。	共用フロアには、テーブル・椅子・ソファ・テレビなどが配置され、習字・塗り絵の作品や季節の作品などが飾られている。訪問時、入居者は、テレビを見ながら漢字のクイズを解いたり、身体を動かしている様子が見られた。清掃が行き届いており、温かく穏やかな暮らしが伺えた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りを好まれる方には意思を尊重してその空間を邪魔する事はせず、逆に集いを好まれる方にはDVDや映画等を共有スペースにて放映したり、他利用者や職員との交流・会話に参加を促し、様々な提供・工夫を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の意思を尊重し、ご家族・友人の写真や葉書、イラストの飾りつけ、テレビの設置等個々の趣味嗜好を重視した空間づくりを行っている。	居室には、大きな収納と洗面台が設置されており、それぞれタンス・衣装掛け・テレビなどを配置している。壁に好きな歌手のポスターを何枚も貼っている人、祭壇を置いている人など、それぞれに居心地の良い部屋づくりが伺えた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	移動や物品の整理、食事時間での配膳の準備、レク等の参加など自力でできる範囲では職員はサポートを行い、個々人の意思・行動を重視した支援を行っている。		